

～今年も作品展「**がんと生きる、私の物語**」を開催します～

☆ **日時：2月5日（月）10時～3月2日（金）15時まで**

絵画・写真・絵手紙コンテスト受賞作品の7点を展示します

☆ **場所：患者図書室前と4階売店前**

2箇所に分けて常設しますので、外来受診や入院中の方もご覧になれます。患者図書室に配架しているがん関連のパンフレットを用意しますので、ご自由にお持ち下さい。

～2回目の「**子育てカフェ**」が終わりました～

やすらぎ文庫便り 23号で紹介した発達障害の子供を育てているお母さんのために、昨年、2回目の子育てカフェを開催しました。臨床心理士が中心に進めた会は、皆さんが「自分自身を見つめる時間」となったようです。気持ちを話せる相手が居る場所で、同様に悩んでいる人と共に話しながら・・・共感しあう・・・って、必要なんですね。特に話題に上がったのが医療機関や通園している園でのコミュニケーション上の事でしたが・・・それぞれの立場での「思いのずれ」がお母さんたちに辛い思いをさせたようでした。でも話し合っている内に「はっきり言ってもらってよかったかもしれない」、「迷っているより、これからの事が考えられるようになるから」と、自分自身に納得させるように話していました。参加したお母さん達の賛同を得たことが、力になったのでしょうか **!(^^)!**

～**耐えられない現実と向きあうことになった家族との関わり**～

日々医療情報を調べるお手伝いをしておりますが、病気について真実を知りたい思いと向き合いたくない思いに揺れ動く患者・家族に多く接します。最近、片言の日本語で「英語で書かれた本を読みたい」と来室した女性が居ました。数冊提供しましたら、「心臓はどこにあるの？」と英語で話し始めましたので、英語で説明できる人が居るので呼びましようと言いましたら、「NO！貴女でいい」と断られてしまいました。質問につたない英語で説明していると、入院中の夫の話をし始めました。病室まで同行して欲しいと言われ、病棟には経緯を説明したので、翌日、医師は夫の病状について女性に説明をしたようです。その後、女性は患者図書室に寄り、辞書を出して調べたり、色々聞いてきました。他に患者さんが居なかった事もあり、対面して話しを聞く事が出来ました。「夫が元気になるといい」と呟き、「私には、友人がいない・・・」自身の事も話し・・・夫を頼りにしているのがよく分かりました。誰でも辛い結果を独りでは受け止められない時がありますね・・・女性は、地域の方に支えられ、乗り切ったようでした。